資治通鑑 第187巻

【唐紀三】　起屠維單閼正月，盡十月，不滿一年。

■唐、●隋、突厥突厥、続国訳漢文大成 経子史部 第11巻045p

高祖神堯大聖光孝皇帝上之下武德二年（己卯、６１９年）

【王世充は隋室を支配】

●［王世充は顯官独占］春，正月，壬寅（38-37+1=２日），**王世充**は悉く隋朝の顯官、名士を取り太尉府の官屬と為し，**杜淹**、**戴胄**は皆な焉（これ）に預る。**胄**は，安陽（相州を帯びる）人也。

●［隋將軍王隆の東都到着］隋の將軍の**王隆**は屯衛（煬帝は左右領軍衛を改めて左右屯衛と為す）將軍の**張鎮周**、都水少監の**蘇世長**等を帥いて山南の兵を以て始めて（義寧元年七月に王隆を遣わして兵を東都に会せしむ）東都に至る。

●［王世充の人材登用令の空虚］**王世充**は專ら朝政を總べ，事は大小と無く，悉く太尉府に關す。台省監署は，闃然（げきぜん）たらざるは莫し。**世充**は三牌を府の門外に立て，一に文學才識ありて時務を濟（すく）うに堪える者を求め，一に武勇智略ありて能く鋒を摧き敵を陷とす者を求め，一に身に冤滯（えんたい）有りて擁抑（ようよく）（擁は壅）して申びざる者を求める。是に於いて上書して事を陳べる者は日に數百有り，**世充**は悉く引見し，躬自ら省覽し，殷勤に慰諭し，人人自ら喜ひ，以為えらく言聽かれ計從わると，然れども終に施行する所無し。(11-046p)

下は士卒・廝養（召使い・炊烹）に至るまで，**世充**は皆な甘言を以て之を悅ばせ，而して實は恩施無し。

●［獨孤武都は王世充に反乱計画］隋の馬軍總管の**獨孤武都**は**世充**の親任する所と為り，其の從弟の司隸大夫（煬帝は司隸台を置き大夫を長とする、諸々の巡察を掌る、正四品）の**機**は、虞部郎（山澤を掌る官、工部尚書に属す）の**楊恭慎**、前の勃海（煬帝は滄州を改める）郡の主簿の**孫師孝**、步兵總管の**劉孝元**、**李儉**、**崔孝仁**と興に唐の兵を召さんと謀り，**孝仁**をして**武都**を說いて曰わ使む、

「王公は徒（いたず）らに兒女之態を為し以て下愚を悅ばせ，而して鄙隘貪忍にして，親舊を顧みず，豈に能く大業を成さん哉！圖識之文は，應に**李氏**に歸すべしと，人は皆な之を知る。唐は晉陽に起こり，關內を奄有し，兵は行を留めず，英雄景附す。且つ坦懷にして物を待ち，善を舉げ功を責め，舊惡を念わず，勝勢に據り以て天下を爭う，誰か能く之に敵せん！吾が屬は身を托する所に非ず，坐して夷滅を待つ。今任管公（任瑰は穀州刺使を以て新安に鎮し、管國公に封ぜらる）の兵近くは新安に在り，又た吾之故人也，若し間使を遣わして之を召し，夜城下に造ら使め，吾が曹に共に內應を為し，開門して之を納れば，事は集らざる無からん矣。」

武都は之に從う。事は洩れ，**世充**は皆な之を殺す。**恭慎**は，**達**（隋の觀の德王雄の弟）之子也。

■癸卯（39-37+1=３日），秦王の**世民**に命じて出でて長春宮（同州朝邑県にあり、北周の宇文護が建てる、陝西省関中道）に鎮ぜしむ。

●■［元寶藏は唐に來降］**宇文化及**は魏州總管の**元寶藏**を攻め，四旬して克たず。**魏徵**は往きて之を說き，丁未（43-37+1=７日），**寶藏**は州を舉げて來降す。

■●［李神通は宇文化及を聊城に囲む］戊午（54-37+1=１８日），淮安王の**神通**は**宇文化及**を魏縣に擊ち，**化及**は抗する能わず，東に聊城（魏州に属す。山東省東臨道聊城県の西北十五里、現・聊城市東昌府区）に走る。**神通**は魏縣を拔き，斬獲は二千餘人，兵を引いて**化及**を追いて聊城に至り，之を圍む。

■甲子（60-37+1=２４日），**陳叔達**を以て納言と為す。

■丙寅（60+3-37+1=２７日），**李密**の置く所の伊州刺史の**張善相**は來降す。

●［朱粲の剽掠激しく、楊士林起兵して攻撃］朱粲は衆二十萬有り，漢、淮之間を剽掠し，遷徙して常無し，攻めて州縣を破り，其の積粟を食(くら)い未だ盡きずして，復た他に適(き)き，將に去らんとし，悉く其の餘資を焚く。又た稼穡を務めず，民の餒死する者は積むが如し。粲は復た掠む可き無く，軍中食乏しく，乃ち士卒に教えて婦人、嬰兒を烹て之を噉(くら)わしめ，曰く、
「肉之美なる者は人に過ぎるは無し，但だ他國をして人有ら使めば，何ぞ餒を憂えん！」
隋の著作佐郎の陸從典、通事舍人の顏愍楚，謫官して南陽（鄧州）に在り，粲は初め引きて賓客と為し，其の後食無く，闔家（集団全体）の皆な噉う所と為る。愍楚は，之推（高齊の季に事える）之子也。又た諸城堡の細弱なるに稅し以て軍食に供し，諸城堡は相い帥いて之に叛す。淮安（河南省汝陽道泌陽県、現・駐馬店市泌陽県）の土豪の楊士林、田瓚は兵を起こして粲を攻め，諸州は皆な之に應じる。粲は與に淮源（淮水は河南省汝陽道桐栢大復山に出る。山南に淮源廟有り）に戰い，大敗し，餘衆數千を帥いて菊潭（鄧州に属す。河南省汝陽道内郷県西北、現・南陽市内郷県）に奔る。士林の家は世々蠻酋なり（11-047p），隋の末，士林は鷹揚府の校尉と為り，郡官を殺し而して其の郡に據る。既に朱粲を逐い，己巳（5+60-37+1=２９日），漢東（大業に隋州を改めて漢東郡とす）四郡を帥いて遣使して信州（梁は信州を魚復に置く。大業に改めて巴東郡と為す。唐は復た信州と為す）總管の廬江の王瑗に詣りて降を請い，詔して以て顯州（北魏は東荊州を比陽に置く。後改めて淮州と為す。隋の文帝は顯州と改める。河南省汝陽道泌陽県、現・駐馬店市泌陽県）道行台と為す。士林は瓚を以て長史と為す。
●［王世充は皇泰主に心服せず］初め，王世充は既に元（元文都）、盧（盧楚）を殺し（185 巻元年七月にあり），人情の未だ服せざるを慮り，猶ほ皇泰主に媚事し，禮は甚だ謙敬なり。又た請いて劉太后の假子と為り，尊號を聖感皇太后と曰う。既に而して漸く驕横なり，嘗て食を禁中に賜わり，家に還りて大いに吐き，毒に遇うを疑い，是より復た朝謁せず。皇泰主は其の終に臣と為らざるを知り，而して力制する能わず，唯だ内庫の彩物を取り大いに幡花を造る。又た諸々服玩を出し，僧をして貧乏に散施せ令め、以て福を求める。世充は其の黨の張績、董浚をして章善、顯福の二門（東都の皇城の南面の三門、中を応天、左に興教といい、右を光政といい、興教の打を會昌といい、其の北を章善といい、光政の内を廣運といい、其の北を顯福という）を守ら使め，宮内の雜物，毫釐も出ずるを得ず。是の月，世充は人をして印及び劍を獻ぜ使む。又た河水の清きを言い，以て衆に耀かして，己の符瑞と為さんと欲すと雲う。
■［梁師都は靳孝謨を殺す］上は金紫光祿大夫の武功の靳孝謨を遣わして邊郡を安集せしむ，梁師都の獲る所と為る。孝謨は之を罵りて口を極める，師都は之を殺す。二月，詔して爵武昌縣公を追賜して，謚して忠と曰う。

■［唐の租稅制度］初めて租（唐の租、田を授かる者は丁は歲に粟二斛を出す）、庸（人力歲に二十日、閏には二日を加える。役せざる者は絹三尺と為す、事ありて役を加えること二十五日なる者は調を免ず、三十日なる者は租調皆メンズ。正役に通じて五十日を過ぎず）、調（鄉の出す所に隨って歲に絹二匹・綾絁二丈を輸し、布は五の一を加え、綿三両、麻三斤、蠶鄉に非ざれば銀十四両を輸す）の法を定め，丁毎に租二石，絹二匹，綿三兩。茲より以外は，横しまに調斂する有るを得ず。
■丙戌（22-6+1=１７日），詔す、
「諸宗姓は官に居る者は同列之上に在り，未だ仕えざる者は其の徭役を免ず。州毎に宗師一人を置き以て攝總し，別に團伍と為す。」

■［李軌は皇帝を降りず、唐は討伐へ］張俟德は涼に至り（去年八月派遣），李軌は其の群臣を召して廷議して曰く、

「唐の**天子**は，吾之從兄なり，今已に位を京邑に正す。一姓自ら天下を爭う可からず，吾は帝號を去り，其の官爵を受けんと欲す，可なる乎？」
曹珍は曰く、
「隋は其の鹿を失い，天下は共に之を逐い，王と稱し**帝**と稱する者は，奚ぞ**啻**(ただ)一人！唐は關中に**帝**たり，涼は河右に**帝**たり，固より相い妨げず。且つ已に**天子**と為る，奈何して復た自ら貶黜するや！必ず小を以て大に事えんと欲すれば，請う**蕭察**が魏に事えるの故事（165 巻梁の元帝承聖三年にあり）に依るを。」
軌は之に從う。戊戌（34-6+1=２９日），**軌**は其の尚書左丞の**鄧曉**を遣わして入見せしめ，書を奉りて稱す、
「皇從弟の**大涼皇帝**の臣**軌**」
而して官爵を受けず。**帝**は怒り，（11-048p）**曉**を拘えて遣らず，始めて師を興して之を討つを議す。

■吐谷渾［吐谷渾に李軌討伐を命ず］初め，隋の**煬帝**は自ら吐谷渾を征し，**吐谷渾可汗**の**伏允**は數千騎を以て党項（タングート）に奔り（181 巻煬帝大業五年にあり），**煬帝**は其の質子の**順**を立てて主と為し，餘衆を統べ使め，入るを果たさず而して還る。會々中國は喪亂し，**伏允**は復た還りて其の故地を收める。**上**は禪を承け，**順**は江都より長安に還り（煬帝殺されるを機会に），**上**は遣使して**伏允**と連和し，**李軌**を擊た使め，**順**を以て之に還さんを許す。**伏允**は喜び，兵を起して**軌**を擊ち，數々遣使して入貢せしめて**順**を請い，**上**は之を遣る。

【群盜・竇建德は隋の夏王となる】

●［朱粲は唐に降る］閏月，**朱粲**は遣使して降を請い，詔して**粲**を以て楚王と為し，自ら官屬を置くを聽し，便宜を以て事に從わしむ。
●**宇文化及**は珍貨を以て海曲の諸賊を誘い，賊帥の**王薄**は衆を帥して之に從い，與に共に聊城を守る。
●［竇建德は宇文化及を攻める］**竇建德**は其の群下に謂って曰く、
「吾は隋の民為り，隋は吾の君為り。今**宇文化及**は弑逆す，乃ち吾の仇也，吾は以て討たざる可からず！」
乃ち兵を引いて聊城に趣く。
■［神通は聊城を攻めて優柔不断］淮安王の**神通**は聊城を攻め（去年十月山東慰撫に派遣），**化及**の糧は盡き，降を請い，**神通**は許さず。安撫副使の**崔世幹**（副は崔民幹ではないか）は**神通**に之を許すを勸め，**神通**は曰く、
「軍士の暴露すること日久しく，賊の食は盡き計は窮まる，克つは旦暮に在り，吾は當に攻取して以て國威を示し，且つ其の玉帛を散じて以て戰士を勞うべし。若し其の降を受ければ，將に何を以て軍賞と為さん乎！」
世幹は曰く、
「今**建德**は方に至らんとし，若し**化及**未だ平らがざれば，内外に敵を受け，吾が軍は必ず敗れん。夫れ攻めず而して之を下せば，功為ること甚だ易し，奈何して其の玉帛を貪り而して（降を）受けざらん乎！」
神通は怒り，**世幹**を軍中に囚える。既に而して**宇文士及**は濟北より之に饋り，**化及**の軍は稍振い，遂に復た拒み戰う。**神通**は兵を督して之を攻め，貝州（清河郡を以て名付ける）刺史の**趙君德**は堞を攀(よ)じて先ず登り，**神通**は心に其の功を害し，兵を收めて戰わず。**君德**は大いに詬り而して下り，遂に克たず。**建德**の軍は且に至らんとし，**神通**は兵を引いて退く。
●［竇建德は宇文化及を殺害］**建德**は**化及**と連戰し，大いに之を破り，**化及**は復た聊城を保つ。**建德**は兵を縱ちて四面より急に攻め，**王薄**は開門して之を納れる。**建德**は入城し，生きて**化及**を擒とし，先ず隋の

蕭皇后に謁し，語は皆な臣と稱し，素服して**煬帝**を哭し哀を盡くす。傳國の璽及び鹵簿儀仗を収め，隋之百官を撫存し，然る後に逆黨の**宇文智及**、**楊士覽**、**元武達**、**許弘仁**、**孟景**を執り，隋の官を集め而して之を斬り，軍門之外に梟首す。檻車を以て**化及**並びに二子の**承基**、**承趾**を載せて襄國（邢州を改める）に至り，之を斬る。**化及**は且に死せんとし，更に餘言無く，但だ云う、

「**夏王**に負かず！」

●［**竇建德は隋の夏王として実権把握**］**建德**は戰い勝ち城に克つ毎に，得る所の資財は，悉く以て將士に分け，身は取る所無し。又た肉を噉わず，常に蔬，茹粟飯を食う。妻の**曹氏**は，紈綺を衣ず，役する所の婢妾は，才（わずか）に十許人。**化及**を破るに及び，隋の宮人千數を得，即時に之を散遣す。隋の黄門侍郎の**裴矩**を以て左僕射と為し，選事を掌らしめ，兵部侍郎の**崔君肅**を侍中と為し，少府令（少府監の長官）の**何稠**を工部尚書と為し，（11-049p）右司郎中（煬帝三年に尚書郡司に初めて左右司郎各々一人を置き、都省の職を掌る。品は諸曹郎に同じく従五品）の**柳調**を左丞と為し，**虞世南**を黄門侍郎と為し，**歐陽詢**を太常卿と為す。**詢**は，**紇**（170巻陳の宣帝太建元年にあり）之子也。自餘は才に隨いて職を授け，委ねるに政事を以てす。其の留まるを願わず，關中及び東都に詣らんと欲する者は，亦た之を聽し，仍ほ資糧を給し，兵を以て之を援けて境を出でしむ。隋の驍果は尚ほ萬人に近し，亦た各々縱ち遣わし，其の之く所に任す。又た**王世充**と好みを結び，遣使して表を隋の**皇泰主**に奉り，**皇泰主**は封じて**夏王**と為す。**建德**は群盜より起こり，國を建てると雖も，未だ文物法度有らず，**裴矩**は之が為に朝儀を定め，律令を制し，**建德**は甚だ悅び，毎に之に從いて典禮を咨訪す。

【宇文士及・許紹など唐に続々来降】

■［**群臣を考第**］甲辰（40-36+1=５日），**上**は群臣を考第し，**李綱**、**孫伏伽**を以て第一と為す。因りて置酒して高會し，**裴寂**等に謂って曰く、

「**隋氏**は主驕り臣は諂（へつら）うを以て天下を亡い，**朕**は即位して以來，毎に虛心に諫を求める，然るに唯だ**李綱**のみ差（やや）忠款を盡くし，**孫伏伽**は誠直と謂う可し。餘人は猶ほ敝風を踵（つ）ぎ，眉を俯（うつむ）き而して已み，豈に**朕**が望む所ならん哉！**朕**は卿を視ること愛子の如し，卿は當に**朕**を視ること慈父の如し。懷う有れば必ず盡くし，自ら隱す勿れ也。」

因りて命じて君臣之敬を捨て，歡を極め而して罷む。

■前御史大夫の**段確**を遣わして**朱粲**に使いせしむ。

■［**宇文士及・封德彝は唐に帰参す**］初め，**上**は隋の殿内少監為るや，**宇文士及**は尚輦奉御（尚輦局は殿内省に属す）為り，**上**は之と善し。**士及**は**化及**に從いて黎陽に至り，**上**は手ずから詔して之を召し，**士及**は潛に家僮を遣わして間道して長安に詣らしめ，又た使者に因りて金環を獻ず（長安に還りたいとの表明）。**化及**は魏縣に至り，兵勢は日々に蹙まり，**士及**は之に勸めて唐に歸せしめ，**化及**は從わず，内史令の**封德彝**は**士及**に說き濟北に於いて軍糧を征督し以て其の變を觀しむ。**化及**は**帝**を稱し，**士及**を立てて蜀王と為す。**化及**は死し，**士及**は**德彝**と濟北より來降す。時に**士及**の妹は昭儀為り，是に由り**上**は儀同を授く。**上**は**封德彝**を以て隋室の舊臣なり，而して諂巧不忠なるを以て，深く之を誚責し，罷遣して捨に就かしむ。**德彝**は秘策を以て**上**を幹し，**上**は悅び，尋いで内史舍人に拜し，俄に待郎に遷す。

■［**夷陵の許紹の来降**］甲寅（50-36+1=１５日），隋の夷陵郡丞の安陸（煬帝は安州を改める、現・湖北省孝感市安陸市）の**許紹**は黔安（黔州を改める、現・重慶市彭水県・貴州省務川県・沿河県一帯）、武陵（梁は武州を置き、煬帝は郡とする、現・湖南省常德市武陵区、澧陽（隋は初め澧陽州を置き、大業に改めて郡とする、現・湖南省常德市澧県）等の諸郡を帥いて來

降す。**紹**は幼なきとき**帝**と同學なり。詔して**紹**を以て峽州刺史と為し，爵安陸公を賜る。
■丙辰（52-36+1=１７日），**徐世勣**を以て黎州（北魏は黎陽郡を黎陽県に置き、後に黎州を置く。隋は廃し、今また黎州を置く、現・河北省鶴壁市浚県の東）總管と為す。
■●［唐は王世充を攻撃］丁巳（53-36+1=１８日），驃騎將軍の**張孝鋹**は勁卒百人を以て**王世充**を汜水城（隋志に汜水県は旧成皋という、即ち虎牢、開皇十八年汜水という、現・鄭州市滎陽市汜水鎮）に襲い（11-050p），其の郛に入り，米船百五十艘を沉める。
●■［王世充部下も続々唐に来降］己未（55-36+1=２０日），**世充**は穀州を寇す。**世充**は**秦叔寶**を以て龍驤大將軍と為し，**程知節**を將軍と為し，之を待つに皆な厚し。然るに二人は**世充**が詐り多きを疾み，**知節**は**叔寶**に謂って曰く、
「王公は器度淺狹に而して妄語多く，好みて咒誓（誓いに背いた時は報いを受けても良いと神の前に誓う事）を為し，此れ乃ち老巫嫗耳，豈に撥亂之主ならん乎！」
世充は唐兵と九曲（水経注に洛水、宜陽より東して九曲の南を経て、其の地十里に阪の九曲なる有り）に戰い，**叔寶**、**知節**は皆な兵を將いて陳に在り，其の徒數十騎と，西に馳すること百許步，下馬して**世充**を拜して曰く、
「僕は公の殊禮を荷ない，深く報效を思う。公の性は猜忌なり，喜びて讒言を信じ，僕が身を托する之所に非ず，今仰ぎ事える能わず，請う此より辭せん。」
遂に馬を躍らせて來降し，**世充**は敢えて逼らず。**上**は秦王の**世民**に事え使め，**世民**は素より其の名を聞き，厚く之を禮し，**叔寶**を以て馬軍總管と為し，**知節**を左三統軍と為す。時に**世充**の驍將も又た驃騎の武安（隋は洛州を改めて武安郡と為す）の**李君羨**、征南將軍の臨邑（隋の臨邑郡は齊郡に属す）の**田留安**有り，亦た**世充**之人と為りを惡み，衆を帥いて來降す。**世民**は**君羨**を引いて左右に置き，**留安**を以て右四統軍と為す。
●■［李厚德も唐に来降］**王世充**は**李育德**之兄の**厚德**を獲嘉（漢の県、武帝は巡行してここに至り、呂嘉を獲るを聞き、因りて以て県に名付ける。隋の河南郡に属す。河南省河北道獲嘉県、現・新郷市獲嘉県）に囚える。**厚德**は其の守將の**趙君穎**と殷州刺史の**段大師**を逐い，城を以て來降す。**厚德**を以て殷州（隋の開皇十六年に獲嘉県に殷州を置く。大業の初めに州を廃す。王世充は復た置く）刺史と為す。
●**竇建德**は邢州を陷とし，總管の**陳君賓**を執る。
■［李元吉を免官］**上**は殿内監の**竇誕**（皇后の兄）、右衛將軍の**宇文歆**を遣わして并州總管の齊王の**元吉**を助けて晉陽を守らしむ。**誕**は，**抗**之子也，**帝**の女の**襄陽公主**に尚す。**元吉**の性は驕侈なり，奴客婢妾は數百人，好みて之をして被甲し，戲れて攻戰を為さ使む，前後死傷するは甚だ衆く，**元吉**も亦た嘗て傷を被る。其の乳母の**陳善意**は苦諫し，**元吉**は醉い，怒り，壯士に命じて之を毆殺す。性は田獵を好み，罔罟三十餘車を載せ，嘗て言う、
「我は寧ろ三日食わずとも，一日獵せざる能わず。」
常に**誕**と遊獵し，人の禾稼を蹂踐す。又た左右を縱ちて民の物を奪い衢に當たりて人を射，其の箭を避けるを觀る。夜，府門を開き，他室に宣淫す。百姓は憤怨し，**歆**は屢々諫むれども納れず，乃ち表して其の狀を言う。壬戌（58-36+1=２３日），**元吉**は坐して免官せられる。
■●［獲嘉の攻防］癸亥（59-36+1=２４日），陟州（この年育德は修武県濁鹿城を以て降る、武陟より陟州とす）刺史の**李育德**は**王世充**の河内の堡聚三十一所を攻め下す。乙丑（1+60-36+1=２６日），**世充**は其の兄の子の**君廓**を遣わして陟州を侵し，**李育德**は擊ちて之を走らせ，斬首は千餘級。**李厚德**は歸りて親の疾いを省し，**李育德**をして獲嘉を守ら使め，**世充**は兵を並せて之を攻め，丁卯（3+60-36+1=２８日），城は陷ち，**育德**及び弟三人は皆な戰死す。

■［李公の来降］己巳（5+60-36+1=２９日），**李公逸**は雍丘（梁郡雍丘県に北魏は陽夏郡を置く。開皇に郡を廃して杞州を置く。大業に州を廃して県と為す。李公逸は乱によりて之に拠る。今復た州を置く。現・開封市杞県）を以て來降す，杞州總管（時に辺要の州には總管及び刺使を置く）を拜し，其の族弟の**善行**を以て杞州刺史と為す。(11-051p)

●■［楊恭仁の来降］隋の吏部侍郎の**楊恭仁**は，**宇文化及**に從いて河北に至る。**化及**は敗れ，魏州總管の**元寶藏**は之を獲り，己巳（5+60-36+1=３０日），長安に送る。**上**は之と舊有り，黄門侍郎に拜し，尋いで以て涼州總管と為す。**恭仁**は素より邊事に習い，羌、胡の情偽を曉り，民夷は悅服し，蔥嶺より已東は，並びて入りて朝貢す。

突厥■●［太原の危機へ］突厥の**始畢可汗**は其の衆を將いて河を渡りて夏州（漢の朔方の地、赫連氏が都した統萬なり。北魏は滅ぼし統萬鎮と為す。北魏の太和十一年に夏州を置く。隋の大業中に州を改めて朔方郡と為す。唐復た夏州と為す。先制しよう楡林道横山県の西、現・楡林市靖辺県）に至り，**梁師都**は兵を發して之に會し，五百騎を以て**劉武周**に授け，句注より入りて太原を寇さんと欲す。會々**始畢**は卒し，子の什鉢苾は幼く，未だ立つ可からず，其の弟の**俟利弗設**を立てて**處羅可汗**と為す。**處羅**は**什鉢苾**を以て**尼步設**と為し，東偏に居ら使め，幽州之北に直(あた)る。是より先，**上**は右武候將軍の**高靜**を遣わして幣を奉じて**始畢**に使いせしめ，豐州（五原を以て豐州とす。綏遠特別区域五原県、現・バヤンノール市五原県）に至り，**始畢**の卒すを聞き，敕して所在之庫に納れしむ。突厥は之を聞き，怒り，入寇せんと欲す。豐州總管の**張長遜**は**高靜**を遣わして幣を以て塞を出て朝廷の為に賻（貨財）を致し，突厥は乃ち還る。

●■［梁師都は靈州を寇す］三月，庚午（6-6+1=１日），**梁師都**は靈州を寇し，長史（辺要の州には總管・刺使・長史・司馬を置く）の**楊則**は擊ちて之を走らす。

●■壬申（8-6+1=３日），**王世充**は穀州を寇し，刺史の**史萬寶**は戰いて利あらず。

■庚辰（15-6+1=１０日），隋の北海（煬帝は青州を改める）通守の**鄭虔符**、文登（県、東萊郡に属す）令の**方惠整**及び東海（海州を改める）、齊郡（齊州）、東平（鄆州）、任城（魯郡に属す）、平陸（魯郡に属す）、壽張（濟北郡に属す）、須昌（東平郡に属す）の賊帥の**王薄**等は並せて其の地を以て來降す。

●［王世充は九錫を加え鄭國を立てる］**王世充**之新安を寇す也、外に攻取を示し，實は文武之己に附く者を召し禪りを受けんと議す。**李世英**は深く以て不可と為す，曰く、

「四方に奔馳して東都に歸附する所以の者は，公が能く隋室を中興するを以ての故也。今九州之地，未だ其の一を清めざるに，遽に位號を正せば，恐らくは遠人は皆な叛去を思わん矣！」

世充は曰く、

「公の言は是也！」

長史の**韋節**、**楊續**等は曰く、

「隋氏の數は窮まり，理に在りて昭然とす。夫れ非常之事は，固より常人と之を議す可からず。」

太史令の**樂德融**は曰く、

「昔歲長星（隋志に大業十三年六月、星有り太微に孛す。五帝の坐なり。色黄赤、長さ三四尺許と）出で，乃ち舊を除き新を布く之征なり。今歲星は角、亢（二十八宿の二角氏は鄭州・兗州なり）に在り。亢は，鄭之分野なり。若し亟かに天道に順わざれば，恐らくは王氣衰息す。」

世充は之に從う。外兵曹（隋の官に無し、魏晋以来の官制を取りて之を置く）參軍の**戴胄**は**世充**に言って曰く、

「君臣は猶ほ父子のごとき也，休戚は之を同じくし，明公は忠を竭し國に徇じるに若くは莫し，則ち家國俱に安からん矣。」

世充は詭辭して善しと稱し而して之を遣り，(11-052p) **世充**は九錫を受けんと議す，**胄**は復た固く諫め，

世充は怒り，出して鄭州長史と為し，兄の子の**行本**と與に虎牢に鎮せ使む。乃ち**段達**等をして**皇泰主**に言い，**世充**に九錫を加えんと請わ使む。**皇泰主**は曰く、

「鄭公は近くに**李密**を平らげ（去年九月十月にあり），已に太尉に拜し，是より以來，未だ殊績有らず，天下稍平らぐを俟ち，之を議すとも未だ晩からず。」

段達は曰く、

「太尉は之を欲す。」

皇泰主は**達**を熟視して曰く、

「公に任せる！」

辛巳（17-6+1=１２日），**達**等は**皇泰主**之詔を以て，**世充**に命じて相國と為し，黄鉞を假し，百揆を總べしめ，爵を鄭王に進めて，九錫を加え，鄭國は丞相以下の官に置く。

●■［鄭善果は唐に奔る］初め，**宇文化及**は隋の大理卿の**鄭善果**を以て民部尚書と為す。從いて聊城に至り，**化及**の為に戰いを督し，流矢に中たる。**竇建德**は聊城に克ち，**王琮**は**善果**を獲り，之を責めて曰く、

「公は名臣之家なり（父の鄭誠は尉遲迥を討ち、力戰して死す），隋室の大臣なり，奈何して君を弑する之賊の為に命を效して，苦戰し傷痍此に至る乎！」

善果は大いに慚じ，自殺せんと欲し，**宋正本**は馳せて往きて之を救止す。**建德**は復た禮を為さず，乃ち相州に奔り，淮安王の**神通**は之を長安に送る。庚午（6-6+1=１日），**善果**は至り，**上**は之を優禮し，左庶子に拜し、内史待郎を檢校せしむ。

■齊王の**元吉**は并州の父老に諷して闕に詣りて己を留めしむ。甲申（20-6+1=１５日），復た**元吉**を以て并州總管と為す。

■戊子（24-6+1=１９日），淮南の五州は皆な遣使して來降す。

■●辛卯（27-6+1=２２日），**劉武周**は并州を寇す。

■●壬辰（28-6+1=２３日），營州總管の**鄧暠**は**高開道**を擊ち，之を敗る。

●■甲午（30-6+1=２５日），**王世充**は其の將の**高毘**を遣わして義州（武德元年に衛州の汲・新鄉を以て義州を置く、現・河南省新鄉市衛輝市）を寇す。

●［王世充に即位を勸進］東都の道士の**桓法嗣**は《**孔子**閉房記》を**王世充**に獻じ，言う、

「相國は當に隋に代りて**天子**と為るべし」。

世充は大いに悅び，**法嗣**を以て諫議大夫と為す。**世充**も又た雜鳥を羅取し，帛に書して頸に繫ぎ，自ら符命を言い而して之を縱つ。鳥を得來たりて獻ずる者有り，亦た官爵に拜す。是に於いて**段達**は**皇泰主**の命を以て，**世充**に殊禮を加える。**世充**は表を奉りて三び讓り，百官は勸進し，位を都堂（都常×）に設ける。納言の**蘇威**は年老い，朝謁に任ぜず，**世充**は**威**が**隋氏**の重臣なるを以て，以て士民に炫耀せんと欲し，勸進する毎に，必ず**威**の名を冠し。殊禮を受ける之日に及び，**威**を扶けて百官之上に置き，然る後に南面して正坐して之を受ける。

●■［劉武周と突厥は榆次を陷す］夏，四月，**劉武周**は突厥之衆を引いて，黄蛇嶺（榆次県の北、現・山西省晋中市榆次県）に軍し，兵鋒は甚だ盛んなり。齊王の**元吉**は車騎將軍の**張達**をして步卒百人を以て寇を嘗（こころ）み使む。**達**は辭するに兵少なく往く可からざるを以てし，**元吉**は強いて之を遣り，至れば則ち俱に沒す。**達**は忿恨し，庚子（36-35+1=２日），**武周**を引いて榆次（并州に属す、山西省冀寧道榆次県、現・晋中市榆次県）を襲い，之を陷す。

■●［朱粲は段確を噉い、王世充に奔る］散騎常侍の**段確**は，性は酒を嗜み，詔を奉じて**朱粲**を菊潭に慰勞す。辛丑（37-35+1=３日），醉いに乗りて**粲**を侮りて曰く、(11-053p)
「聞く卿は好んで人を噉うと，人は何の味を作すや？」
粲は曰く、
「醉人を噉えば正に糟藏の彘肉（いのこ、豚）の如し。」
確は怒り，罵りて曰く、
「狂賊は入朝し，一頭奴と為る耳，復た人を噉うるを得ん乎！」
粲は座に於いて**確**及び從者數十人を收め，悉く之を烹，以て左右に噉わす。遂に菊潭を屠り，**王世充**に奔り，**世充**は以て龍驤大將軍と為す。

【王世充は遂に皇帝即位】

●［王世充は禪讓を迫る］**王世充**は長史の**韋節**、**楊續**等及び太常博士の衡水（冀州の県、直隷省大名道県の西南十五里、現・衡水市桃城区）の**孔穎達**をして，禪代の儀を造り，**段達**、**雲定興**等十餘人を遣わして入りて**皇泰主**に奏して曰わ令む、
「天命は常ならず，鄭王の功德は甚だ盛んなり，願わくは**陛下**は唐、虞之跡に遵うべし。」
皇泰主は膝を斂め案に據りて，怒りて曰く、
「天下は，**高祖**之天下なり，若し隋祚未だ亡びざれば，此の言は應に輒ち發すべからず。必ず天命已に改まれば，何ぞ禪讓を煩わさん！公等は或は祖禰（祖欄×）の舊臣なり，或は台鼎高位にして，既に斯の言有り，**朕**復た何を望まんや！」
顔色は凜冽（厳冷）なり，廷に在る者は皆な流汗す。朝を退き，泣きて**太后**に對す。**世充**は更に人をして之に謂って曰わ使む、
「今海内は未だ寧からず，須く長君を立てるべし，四方の安集するを俟ち，當に子明辟に復すること，必ず前誓（去年七月差禁中被髪の誓い）の如し。」
癸卯（39-35+1=５日），**世充**は**皇泰主**の命と稱し，位を鄭に禪る。其の兄の**世惲**を遣わして**皇泰主**を含涼殿に幽し，三表の陳讓及び敕書の敦勸有りと雖も，**皇泰主**は皆な知らざる也。諸將を遣わして兵を引いて入りて宮城を清め，又た術人を遣わし桃湯葦火を以て禁省を祓除せしむ。
■［隋から唐に投降相次ぐ］隋の將帥、郡縣及び賊帥の前後繼ぎて降る者有り，詔して**王薄**を以て齊州（歴城県に治す、古の歴下城）總管と為し，**伏德**を濟州（古の碻磝城、秦の東郡茌平の地。宋は碻磝戍及び濟北郡を置く。北魏は齊州を立てる。現・山東省聊城市茌平区高垣牆村）總管と為し，**鄭虔符**を青州總管と為し，**綦公順**を淮州（この年に青州の北海・營丘・下密を分けて濰州を置く。蓋し公順を以て濰州總管、淮州は濰州とすべし）總管と為し，**王孝師**を滄州（漢は渤海郡を置き、浮陽に治す。北魏は滄州を置く）總管と為す。甲辰（40-35+1=６日），大理卿の新樂（古の鮮虞子の國、漢の新市県、中山郡に属す。隋は改めて新樂郡と為す。唐は定州に属す）の**郎楚之**を遣わして山東を安撫せしめ，秘書監の**夏侯端**をして淮左を安撫せしむ。
●［王世充は鄭皇帝に即位］乙巳（41-35+1=７日），**王世充**は法駕を備えて宮に入り，**皇帝**に即位す。丙午（42-35+1=８日），大赦し，改元して開明とす。
■丁未（43-35+1=９日），隋の御衛將軍の**陳稜**は江都を以て來降す。**稜**を以て揚州（漢の廣陵・江都の地。漢以来揚州の治所。其の邑を常にせず。唐に至りて廣陵始めて揚州の名を有す）總管と為す。
●［鄭の支配体制］戊申（44-35+1=１０日），**王世充**は子の**玄應**を立てて**太子**と為し，**玄恕**を漢王と為し，

余の兄弟宗族十九人を皆な王と為す。**皇泰主**を奉じて潞國公と為す。**蘇威**を以て太師と為し，**段達**を司徒と為し，**雲定興**を太尉と為し，**張僅**を司空と為し，**楊續**を納言と為し，**韋節**を内史（内史令とすべし）と為し，**王隆**を左僕射と為し，**韋霽**を右僕射と為し，齊王の**世惲**を尚書令と為し，**楊汪**を吏部尚書と為し，(11-054p) **杜淹**を少吏部（吏部侍郎）と為し，**鄭頲**を御史大夫と為す。**世惲**は，**世充**之兄也。又た國子助教（晋の武帝は國子学を立て助教を置く。博士を佐けて教授するを掌る、助都×）の呉人の**陸德明**を以て漢王の師と為し，**玄恕**をして其の家に就きて束脩の禮（師に事えるの禮）を行わ令む。**德明**は之を恥じ，故に巴豆散（毒ありて下痢す）を服し，臥して病と稱し，**玄恕**は入りて床下に跪き，之に對して遺利し，竟に與に語らず（陸德明は孔穎達に過ぎること遠し）。**德明**の名は**朗**，字を以て行わる。

●［王世充の提案制度失敗］**世充**は闕下及び玄武門等の數處に於いて皆な榻（こう）を設け，坐するに常所無く，親しく章表を受ける。或は輕騎して衢市を遊歴（続は歴）し，亦た道を清めず，民は但だ路を避け而して已む。**世充**は轡を按じて徐行し，之に語りて曰く、

「昔時**天子**は深く九重に居り，下に在るの事情は聞徹に由し無し。今**世充**は天位を貪るに非ず，但だ時危を救恤せんと欲するのみ，正に一州の刺史の如く，親ら庶務を覧，當に士庶と共に朝政を評すべし，尚ほ恐る門に禁限有るを，今門外に於いて坐を設けて朝を聽く，宜しく各々情を盡くすべし。」

又た西朝堂をして冤抑を納れ，東朝堂をして直諫を納れ令む。是に於いて策を獻じ上書する者は日々に數百有り，條流（條派というべし、條疏×）は既に煩わしく，省覧は遍く難し，數日の後，復た更に出です。

●突厥［竇建德は突厥に結び、蕭皇后を送る］**竇建德**は**王世充**の自立するを聞き，乃ち之を絶ち，始めて**天子**の旌旗を建て，出ずるに警し入るに蹕（さきばらい）し，書を下して詔と稱し，隋の**煬帝**に追謚して**閔帝**と為す。齊王の**暕**（江都の乱に死す）之死する也，遺腹の子の**政道**有り，**建德**は立てて以て鄆（うん）公と為し，然れども猶ほ突厥に依倚し，以て其の兵勢を壯とす。隋の**義成公主**は遣使して**蕭皇后**及び**南陽公主**を迎え，**建德**は千餘騎を遣わして之を送り，又た**宇文化及**の首を傳え以て**義成公主**に獻ず。

●■［劉武周は并州包囲］丙辰（52-35+1=１８日），**劉武周**は并州を圍み，齊王の**元吉**は拒ぎて之を卻く。戊午（54-35+1=２０日），太常卿の**李仲文**に詔して兵を將いて并州を救わしむ。

●［君度、玄恕のみ罰する］**王世充**の將軍の**丘懐義**は門下内省に居り、越王の**君度**、漢王の**玄恕**、將軍の**郭士衡**を召し妓妾を雑えて飲博し，侍御史の**張蘊古**は之を彈ず。**世充**は大いに怒り，散手（散手仗。凡そ朝会の仗は親勲翊の三衛番上し、分けて五仗と為す。一を供奉仗、二を親仗、三を勲仗、四を翊仗、五を散手仗という）をして**君度**、**玄恕**を執え令め，其の耳を批つこと數十。又た命じて引いて東上閣（東都の皇宮の正殿を乾陽殿といい、殿の左を、右を西上閣、閣に各々門あり）に入れしめ，之を仗つこと各々數十。**懐義**、**士衡**は問わず。**蘊古**に帛百段を賞し，**太子**の舍人に遷す。**君度**は，**世充**之兄の子也。

●［世充の言は要領得ず、群臣疲れる］**世充**は朝を聽く毎に，殷勤に誨諭し，言詞は重複し，千端萬緒，侍衛之人は倦弊（飽き草臥れる）に勝えず，百司は事を奏するに，聽受に疲れる。御史大夫の**蘇良**は諫めて曰く、

「**陛下**は語太だ多く而して領要（要領）無し，計るに云爾（然云う、というのみ）すれば即ち可なり，何ぞ許（かくのごとき）辭を煩わさん也！」

世充は默然として良く久しく，亦た**良**を罪せず，然れども性は是くの如く，終に改める能わざる也。(11-055p)

●■［伊州の張善相は城は陥つ］**王世充**は數々伊州を攻め，總管の**張善相**は之を拒む。糧盡き，援兵は至

らず，癸亥(59−35+1=２５日)，城は陷ち，**善相**は**世充**を罵しることロを極め而して死す。**帝**は聞き，歎じて曰く、
「吾は**善相**に負く，**善相**は吾に負かざる也！」
其の子に爵の襄城郡公を賜る。
●■**五月**，**王世充**は義州を陷し，復た西濟州を寇す。右驍衛大將軍の**劉弘基**を遣わして兵を將いて之を救わしむ。

【李軌を併合】

■●［安興貴は李軌の説得に向かう］**李軌**の將の**安修仁**の兄の**興貴**は，長安に仕え，表して請う、
「**軌**に說き，諭すに禍福を以てすべし。」
上は曰く、
「**軌**は兵を阻み險を恃み，吐谷渾、突厥に連結し，吾が兵を興して之を擊てども，尚ほ克たざるを恐れる，豈に口舌の能く下す所ならん乎！」
興貴は曰く、
「臣の家は涼州に在り，奕世（代々）の豪望，民夷の附く所と為り。弟の**修仁**は**軌**の信任する所と為り，子弟は機近に在る者は十を以て數える。臣は往きて之を說けば，**軌**は臣に聽けば固（まこと）に善し，若し其の聽さざれば，之を肘腋に圖るは，易し矣！」
上は乃ち之を遣る。
■●［安興貴は李軌を調略して滅ぼす］**興貴**は武威に至り，**軌**は以て左右衛大將軍と為す。**興貴**は間に乘りて**軌**を說いて曰く、
「涼の地は千里に過ぎず，土は薄く民は貧なり。今唐は太原に起き，函秦を取り，中原を宰制す。戰えば必ず勝ち，攻めれば必ず取る，此れ殆んど天啟なり，人力に非ざる也。河西を擧げて之に歸すに若かず，則ち**竇融**之功は復た今日に見ん矣！」
軌は曰く、
「吾は山河之固きに據り，彼は強大と雖も，我を若何せん？汝は唐より來たり，唐の為に遊說する耳。」
興貴は謝して曰く、
「臣は聞く、富貴にして故鄉に歸らざれば，繡を衣て夜行くが如し（項羽の言）。臣の闔門は**陛下**の榮祿を受け，安んぞ肯えて唐に附かんや！但だ其の愚慮を效さんと欲するのみ，可否は**陛下**に在る耳。」
是に於いて退きて、**修仁**と陰に諸胡に結んで兵を起こし**軌**を擊ち，**軌**は出でて戰い而して敗れ，城を嬰して自ら守る。**興貴**は徇（とな）えて曰く、
「大唐は我を遣わして來たりて**李軌**を誅せしむ，敢えて之を助ける者は三族を夷げん！」
城中の人は爭いて出でて**興貴**に就く。**軌**は計窮まり，妻子と玉女台（築くこと前巻前年にあり）に登り，置酒して別れを為す。庚辰（16−5+1=１２日），**興貴**は之を執り以て聞し，河西は悉く平らぐ。**鄧曉**は長安に在り（今年二月に李軌が遣わした使者），舞蹈して慶を稱し，**上**は曰く、
「汝は人の使臣と為り，國の亡びるを聞き，戚（いた）まず而して喜ぶ，以て媚を**朕**に求める。**李軌**に忠ならず，肯えて**朕**の用を為さん乎！」
遂に之を廢すること終身なり。
■［李軌を長安で誅殺］**軌**は長安に至り，其の子弟を並せて皆な伏して誅す。**安興貴**を以て右武候大將

軍、上柱國、涼國公と為し，帛萬段を賜い，**安修仁**を左武候大將軍、申國公と為す。

●■［離石胡の自立］隋末に，離石（漢の県、北周改めて昌化郡とす。隋は離石郡、唐は石州）胡（離石胡は匈奴種）の**劉龍兒**は兵數萬を擁し，自ら**劉王**と號し，其の子の**季真**を以て**太子**と為す。虎賁郎將の**梁德**は擊ちて**龍兒**を斬る。是に至り，**季真**は弟の**六兒**と復た舉兵して亂を為し，(11-056p) **劉武周**之衆を引きて攻めて石州を陷し，刺史の**王儉**を殺す。**季真**は自ら**突利可汗**を稱し，**六兒**を以て拓定王と為す。**六兒**は遣使（隋使×）して降を請い，詔して以て嵐州（樓煩郡を以て嵐州を置く）總管と為す。

■［李世民は九州諸軍事］壬午（18-5+1=１４日），秦王の**世民**を以て左武候大將軍、使持節、涼、甘等九州諸軍事（李軌の旧領をすべて支配）、涼州總管と為し，其の太尉、尚書令、雍州牧、陝東道行台は並せて故の如し。黄門侍郎の**楊恭仁**を遣わして河西を安撫せしむ。

●丙戌（22-5+1=１８日），**劉武周**は平遙（汾州に属す。即ち漢の平陶県。魏は國諱を避けて陶を改めて遙と為す）を陷とす。

■●癸巳（29-5+1=２５日），梁州總管、山東道安撫副使の**陳政**は麾下の殺す所と為り，其の首を攜えて**王世充**に奔る。**政**は，**茂**（陳茂は隋の文帝に事えて機密を預る）之子也。

【王世充は皇泰主を殺害】

●［裴仁基の反乱で皇泰主を鴆殺］**王世充**は禮部尚書の**裴仁基**、左輔大將軍の**裴行儼**の威名有るを以て，之を忌む。**仁基**の父子は之を知り，亦た自ら安ぜず，乃ち尚書左丞の**宇文儒童**、儒童の弟の尚食（殿中省に属す）直長の**溫**、散騎常侍の**崔德本**と**世充**及び其の黨を殺し，復た**皇泰主**を尊立せんと謀る。事は洩れ，皆な三族を夷ぐ。齊王の**世惲**は**世充**に言って曰く、

「**儒童**等の謀反は，正に**皇泰主**が尚ほ在るが為の故也，早く之を除くに如かず。」

世充は之に從い，兄の子の唐王の**仁則**及び家奴の**梁百年**を遣わして**皇泰主**を鴆す。**皇泰主**は曰く、

「更に為に太尉に請え，往者之言（王世充は往に子明辟に復するの言有り、既に践む能わず、今應に遂に之を殺すべからざるをいう）を以てすれば，未だ應に此に至るべからず。」

百年は為に啟陳せんと欲し，**世惲**は許さず。又た**皇太后**と辭決せんと請い，亦た許さず。乃ち席（度×）を布き香を焚き佛を禮す。

「願わくは今より已往，復た**帝王**の家に生まれざらんことを！」

藥を飲み，絶える能わず，帛を以て之を縊殺す。謚して**恭皇帝**と曰う。**世充**は其の兄の楚王の**世偉**を以て太保と為し，齊王の**世惲**を太傅と為し，尚書令を領せしむ。

●**六月**，庚子（36-34+1=３日），**竇建德**は滄州（隋の渤海郡）を陷す。

●■［劉武周は太原攻略を意図］初め，易州（上谷郡）の賊帥の**宋金剛**は，衆萬餘有り，**魏刀兒**と連結す。**刀兒**は**竇建德**の滅ぼす所と為り（去年十一月），**金剛**は之を救い，戰いて敗れ，衆四千を帥いて西に**劉武周**に奔り，**武周**は其の善く兵を用いるを聞き，之を得，甚だ喜び，號して宋王と曰い，委ねるに軍事を以てし，家貲を中分して以て之に遺る。**金剛**も亦た深く自ら結び，其の故の妻を出し，**武周**之妹を納れ，因りて**武周**に說いて、

「晉陽を圖り，南に向いて天下を爭うべし。」

武周は**金剛**を以て西南道大行台と為し，三萬をして并州を寇さ使む。丁未（43-34+1=１０日），**武周**は進みて介州に逼り，沙門の**道澄**は佛幡を以て之に縋（つる）し城に入り，遂に介州（義寧元年に介休・平遙を以て介休郡を置

く、武徳元年に介州とす）を陥す。左武衛大將軍の**姜寶誼**、行軍總管の**李仲文**に詔して之を擊たしむ。**武周**の將の**黄子英**は雀鼠谷（冀寧道介休県、現・晋中市介休市）に往來し，數々輕兵を以て挑戰し，兵は才（わずか）に接し，**子英**は陽（いつわ）りて勝たず而して走り，是くの如きこと再三にして，**寶宜**、**仲文**は衆を悉くして之を逐い，伏兵は發し，(11-057p) 唐兵は大敗し，**寶誼**、**仲文**は皆な虜する所と為る。既に而して俱に逃げ歸り，**上**は復た二人をして兵を將いて**武周**を擊た使む。

突厥■［突厥始畢可汗之喪］己酉（45-34+1=１２日），突厥は遣使して來たりて**始畢可汗**之喪を告げ，**上**は哀を長樂門(長安の宮城の南面三門、東は長樂門、中は承天門、西は永安門)に舉げ，朝を廢すること三日，百官に詔して館に就き其の使者を吊（とむ）（続は弔）らしむ。又た内史舍人の**鄭德挺**を遣わして**處羅可汗**を吊わしめ，帛三萬段を賻す。

■［唐は劉武周へ］**上**は**劉武周**が入寇して憂いと為るを以て，右僕射の**裴寂**は自ら行かんと請う。癸亥（59-34+1=２６日），**寂**を以て晉州（魏の平陽県、隋は臨汾郡、唐は晉州と為す）道行軍總管と為し，**武周**を討たしめ，便宜を以て事に從うを聽す。

■［唐の十二軍編成］**秋，七月**，初めて十二軍（萬年道を參旗軍、長安道を鼓旗軍、富平道を玄戈軍、醴泉道を并鉞軍、同州道を羽林軍、華州道を騎官軍、寧州道を折威軍、岐州道を平道軍、豳州道を招摇軍、西麟州道を苑遊軍、涇州道を天紀軍、宜州道を天節軍と為す）を置き，關内の諸府を分けて以て焉に隷す，皆な天星を取りて名と為し，車騎府を以て之を統べしむ。軍毎に將、副各一人，威名の素より重き者を取りて之と為し，督するに耕戰之務めを以てす。是に由りて士馬は精強にして，向かう所敵無し。

■［海岱の賊帥の徐圓朗の来降］海岱の賊帥の**徐圓朗**は數州之地（西は岱、東は海に至る）を以て降を請い，兗州（隋の魯郡。禹貢の兗州は東南には濟に拠り川北は河に距り、封域廣し。後漢以来兗州に治むる所、其の邑を當にせず、所部亦廣し。ここに至りて始めて專ら魯郡を以て兗州と為す）總管に拜し，魯國公に封ず。

●■［王世充の側近の離反］**王世充**は其の將の**羅士信**を遣わして穀州を寇さしめ，**士信**は其の衆千餘人を帥いて來降す。是より先，**士信**は**李密**に從いて**世充**を擊ち，兵は敗れ，**世充**の得る所と為り，**世充**は厚く之を禮し，與に寢食を同じくす。既に而して**邴元真**等を得，之を待つこと**士信**の如く，**士信**は之を恥じる。**士信**は駿馬有り，**世充**の兄の子の趙王の**道詢**は之を欲するも，與えず，**世充**は之を奪いて以て**道詢**に賜う。**士信**は怒り，故に來降す。**上**は其の來たるを聞き，甚だ喜び，遣使して迎え勞わり，帛五千段を賜り，其の所部に稟食し，**士信**を以て陝州道行軍總管と為す。**世充**の左龍驤將軍の臨涇（臨涇は涇州に属す。甘粛省涇原道鎮原県、現・慶陽市鎮原県臨涇鎮）の**席辯**は同列の**楊虔安**、**李君義**と與に皆な所部を帥いて來降す。

●丙子（12-4+1=９日），**王世充**は其の將の**郭士衡**を遣わして穀州を寇し，刺史の**任瑰**は大いに之を破り，俘斬して且に盡きんとす。

■●［唐は王世充を河陽城に襲う］甲申（20-4+1=１７日），行軍總管の**劉弘基**は其の將の**種如願**を遣わして**王世充**を河陽城に襲い，其の河橋を毀し而して還る。

突厥■乙酉（21-4+1=１８日），西突厥の**統葉護可汗**、高昌王の**麴伯雅**は各々遣使して入貢す。

突厥［突厥の統葉護可汗立つ］初め，西突厥の**曷娑那可汗**は隋に入朝し（181 巻煬帝大業七年にあり），隋人は之を留め，國人は其の叔父を立て，**射匱可汗**と號す。**射匱**と者（は），**達頭可汗**之孫也，既に立ち，地を拓（ひら）きて東に金山（アルタイ山）に至り，海（西海）に至り，遂に北突厥と敵と為り，庭を龜茲の北三彌山に建てる。**射匱**は卒し，弟の**統葉護**は立つ。**統葉護**は勇に而して謀有り，北の鐵勒を並せ，控弦は數十萬，烏孫の故地に據り，又た庭を石國（康居の枝庶の分かれ王たる者なり。現・ウズベキスタンの首都タシケント）の北千泉に移す。(11-058p) 西域諸國は皆な之に臣たり，**葉護**は各々吐屯を遣わして之を監し，其の徵賦を督せしむ。

●■辛卯（27-4+1=２４日），**宋金剛**は浩州（西河郡を改めて浩州と為す）を寇し，浹旬にし而して退く。
■**八月**，丁酉（33-33+1=１日），鄴公は薨ず，謚して隋の**恭帝**と曰う。後無し，族子の**行基**を以て嗣がしむ。
●■［**竇建徳は洺州に向かう**］**竇建徳**は兵十餘萬を將いて洺州（隋の武安郡、現・河北省邯鄲市永年区東南）に趣き，淮安王の**神通**は諸軍を帥いて退きて相州を保つ。己亥（35-33+1=３日），**建徳**の兵は洺州城下に至る。丙午（42-33+1=１０日），將軍の**泰**（秦×）**武通**の軍は洛陽に至り，**王世充**の將の**葛彦璋**を敗る。
●■［**竇建徳は洺州を占領**］丁未（43-33+1=１１日），**竇建徳**は洺州を陷し，總管の**袁子幹**は之に降る。乙卯（51-33+1=１９日），兵を引いて相州に趣き，淮安王の**神通**は之を聞く。諸軍を帥いて**李世勣**に黎陽に就く。
●■［**唐は梁師都を延州に破る**］**梁師都**は突厥と合（命×）わせて數千騎にて延州（隋の延安郡）を寇し，行軍總管の**段德操**は兵少なく敵せず，壁を閉じて戰わず，**師都**が稍怠るを伺い，**九月**，丙寅（3-3+1=１日），副總管の**梁禮**を遣わして兵を將いて之を擊たしむ。**師都**は**禮**と戰い方に酣（たけなわ）なり，**德操**は輕騎を以て多く旗幟を張り，其の後ろを掩擊し，**師都**の軍は潰える。北げるを逐うこと二百餘里，其の魏州（綏州成平県に魏州を置く。魏平関に因りて名付ける）を破り，男女二千餘口を虜たしむ。**德操**は，**孝先**（段孝先は高氏齊の季に柄用される）之子也。

【蕭銑の北上】

●■［**蕭銑は峽州を攻める**］**蕭銑**は其の將の**楊道生**を遣わして峽州（三峽之口、隋の夷陵郡、夷陵・遠安県、湖北省荊南道宜昌県の西北、現・宜昌市夷陵区）を寇し，刺史の**許紹**は擊ちて之を破る。**銑**は又た其の將の**陳普環**を遣わして舟師を帥いて峽に上り，巴、蜀を取るを規らしむ。**紹**は其の子の**智仁**及び錄事參軍の**李弘節**等を遣わして追いて西陵（夷陵は孫氏呉の西陵なり。世にこれを步闡壘という、現・宜昌市西陵区）に至り，大いに之を破り，**普環**を擒とす。**銑**は兵を遣わして安蜀城（公安県の界にあり）及び荊門城（長林県の界にあり）に戍せしむ。
■［**李靖は蕭銑を經略**］是より先，**上**は開府の**李靖**を遣わして夔州（巴東郡は旧信州を置く。この年夔州という）に詣りて**蕭銑**を經略せしむ。**靖**は峽州に至り，**銑**の兵を阻み，久しく進むを得ず。**上**は其の遲留を怒り，陰に**許紹**に敕して（明詔を以てせずして陰に勅するは、猶ほ宿憾を以て之を殺さんとするなり）之を斬らしむ。**紹**は其の才を惜しみ，之が為に奏請し，免るるを獲たり。
●己巳（5-3+1=３日），**竇建徳**は相州を陷し，刺史の**呂鋸**を殺す。

■［**劉文靜は怨言で誅殺**］民部尚書の魯公の**劉文靜**は，自ら以えらく、才略功勳を以て**裴寂**之右に在りと，而るに位は其の下に居り，意は甚だ平かならず。廷議する毎に，**寂**は是とする所有れば，**文靜**は必ず之を非として，數々**寂**を侵侮し，是に由りて隙有り。**文靜**は弟の通直散騎常侍の**文起**と飲み，酒酣にして，怨望し，拔刀して柱を擊ちて曰く、
「會ず當に**裴寂**の首を斬らん！」
家に數々妖有り，**文起**は巫を召し、星下に於いて發を被り刀を銜みて厭勝を為さしむ。**文靜**には妾有り寵無く，其の兄をして變を上り之を告げ使む。**上**は**文靜**を以て吏に屬し，**裴寂**、**蕭瑀**を遣わして狀を問わしむ。**文靜**は曰く、
「建義之初め，忝くも司馬と為り，長史と位望略ぼ同じからんことを計る。今**寂**は僕射と為り，甲第に據る。臣の官賞は衆人に異ならず，東西征討して，老母は京師に留まり，風雨は庇う所無し，實に觖望之心

有り，因りて醉いて怨言す，(11-059p) 自ら保つ能わず。」
上は群臣に謂って曰く、
「**文靜**の此の言を觀るに，反するは明白なり矣。」
李綱、**蕭瑀**は皆な其の反せざるを明らかにし，秦王の**世民**は之が為に固く請いて曰く、
「昔晉陽に在り（184 巻隋の恭帝の義寧元年にあり），**文靜**は先ず非常之策を定め，始めて**寂**に告げて知らしむ。京城に克つに及び，任遇は懸隔し，**文靜**をして觖望せ令むるは則ち之有り，敢えて謀反するに非ず。」
裴寂は上に言って曰く、
「**文靜**の才略は實に時人に冠たるも，性は復た粗險にして，今天下は未だ定まらず，之を留めれば必ず後患を貽（のこ）さん。」
上は素より**寂**に親しみ，低回すること之久しく，卒に**寂**の言を用いる。辛未（7-3+1=５日），**文靜**及び**文起**は坐して死し，其の家を籍沒す。(629 年官爵回復、子の劉樹義が魯国公を継ぎ、公主をめとる。樹義は父の非業の死を恨み、兄の劉樹芸と謀反、李世民は誅殺)

【江南方面は皇帝乱立、混沌とす】

●［沈法興は梁王を自稱］**沈法興**は既に毘陵に克ち（185 巻元年三月あり），謂えらく江、淮之南は指摠して定む可しと，**梁王**を自稱し，毘陵に都し，改元して延康とし，百官を置く。性は殘忍にして，專ら威刑を尚び，將士に小しく過有れば，即ち之を斬り，是に由りて其の下は離怨す。
●■［李子通も江都を落して自立］時に**杜伏威**は歷陽に據り，**陳稜**は江都に據り，**李子通**は海陵に據り，俱に江表を窺う之心有り。**法興**の軍は數々敗れる。會々**子通**は**稜**を江都に圍み，**稜**は質を送りて救いを**法興**及び**伏威**に求め，**法興**は其の子の**綸**をして兵數萬を將いて，**伏威**と共に之を救わ使む。**伏威**は清流（漢の全椒県の地、安徽省淮泗道滁県、現・滁州市南譙区）に軍し，**綸**は揚子に軍し，相い去ること數十里。**子通**の納言の**毛文深**は策を獻じ，江南人を募りて詐りて**綸**の兵と為し，夜**伏威**の營を襲い，**伏威**は怒り，復た兵を遣わして**綸**を襲う。是に由りて二人は相い疑い，敢えて先ず進む莫し。**子通**は鋭を盡くして江都を攻めて，之に克つを得，**稜**は**伏威**に奔る。**子通**は江都に入り，因りて縱に**綸**を擊ち，大いに之を破り，**伏威**は亦た引いて去る。**子通**は**皇帝**に即位し，國號を吳とし，改元して明政とす。丹楊（隋初の蒋州）の賊帥の**樂伯通**は衆萬餘を帥いて之（李子通）に降る，**子通**は以て左僕射と為す。**杜伏威**は（唐に）降を請う。丁丑（13-3+1=１１日），**伏威**を以て淮南安撫大使、和州（漢の歷陽県、高齊は和州を置く。大業に州を廃し歷陽郡と為す。今また和州とす。安徽省安慶道和県、現・馬鞍山市和県）總管と為す。

■●［裴寂は介休で宋金剛に破れる］**裴寂**は介休（漢の古県、介州とす。山西省冀寧道介休県、現・晋中市介休市）に至り，**宋金剛**は城に據りて之を拒む。**寂**は度索原に軍し，營中は澗水を飲み，**金剛**は之を絶ち，士卒は渴乏す。**寂**は營を移して水に就かんと欲し，**金剛**は兵を縱ちて之を擊ち，**寂**の軍は遂に潰え，失亡して略ぼ盡き，**寂**は一日一夜馳せて晉州に至る。
●■［劉武周は西河を攻める］是より先，**劉武周**は屢々兵を遣わして西河を攻め，浩州（隋の西河郡）刺史の**劉贍**は之を拒む。**李仲文**は兵を引いて之に就き，與に共に西河を守る。**裴寂**の敗れるに及び，晉州より以北の城鎮は俱に沒し，唯だ西河は獨り存す。**姜寶誼**は復た**金剛**の虜する所と為り，逃げ歸らんと謀り，**金剛**は之を殺す。**裴寂**は上表して謝罪し，**上**は之を慰諭し，復た河東を鎮撫せ使む。
●■［李元吉は晉陽から逃げ還る］**劉武周**は進みて并州に逼り，齊王の**元吉**は其の司馬の**劉德威**を紿きて

曰く、
「卿は老弱を以て城を守れ，吾は強兵を以て出でて（11-060p）戰わん。」
辛巳（17-3+1=１５日），**元吉**は夜出兵し，其の妻妾を攜えて州を棄てて奔りて長安に還る。**元吉**は始めて去り，**武周**の兵は已に城下に至り，晉陽の土豪の**薛深**は城を以て**武周**を納れる。**上**は之を聞き，大いに怒り，禮部尚書の**李綱**に謂って曰く、
「**元吉**は幼弱にして，未だ時事に習わず，故に**竇誕**、**宇文歆**を遣わして之を輔けしむ。晉陽の強兵は數萬，食は十年を支え，興王之基，一旦之を棄てる。聞く**宇文歆**は首として此の策を畫せると，我は當に之を斬之るべし！」
綱は曰く、
「王は年少く驕逸なり，**竇誕**は曾て規諫する無く，又た之を掩覆し，士民をして憤怨せ使む，今日之敗れは，**誕**之罪也。**歆**は王を諫むれども（今年二月）悛（あらた）めず，尋いで皆な聞奏す，乃ち忠臣也，豈に殺す可けん哉！」
明くる日，**上**は**綱**を召して入れ，御座に升らしめて曰く、
「我は公を得，遂に濫刑無し。**元吉**は自ら不善を為す，二人の能く禁ずる所に非ざる也。」
誕を並せて之を赦す。衛尉少卿の**劉政會**は太原に在り，**武周**の虜にする所と為り，**政會**は密に人を遣わして奉表し**武周**の形勢を論ず。**武周**は太原に據り，**宋金剛**を遣わして晉州を攻めて，之を拔き，右驍衛大將軍の**劉弘基**を虜とす，**弘基**は逃げ歸る。**金剛**は進みて絳州（山西省河東道新絳県、現・運城市新絳県）に逼り，龍門（漢の皮氏県なり。北魏は改めて龍門県と為す。隋唐には蒲州に属す。山西省河東道河津県の西二里にあり、現・運城市河津市）を陷す。
突厥■［突厥の内紛の処理］西突厥の**曷娑那可汗**は北突厥と怨有り。**曷娑那**は長安に在り，北突厥は遣使して之を殺さんと請い，**上**は許さず。群臣は皆な曰く、
「一人を保ち而して一國を失えば，後に必ず患いを為さん！」
秦王の**世民**は曰く、
「人は窮して來たりて我に歸す，之を殺すは不義なり。」
上は遲回すること之久しく，己むを得ず，丙戌（22-3+1=２０日），**曷娑那**を內殿に引いて宴飲し，既に而して中書省に送り，北突厥の使者を縱ち之を殺さ使む。
■［太子の資質］禮部尚書の**李綱**は**太子**の詹事（東宮の三寺十率府の政令を統べる）を領す。**太子**の**建成**は始めて甚だ之を禮す。之久しく，**太子**は漸く小人を暱近し，秦王の**世民**の功高きを疾み，頗る相い猜忌す。**綱**は屢々諫めるも聽かず，乃ち骸骨を乞う。**上**は之を罵りて曰く、
「卿は**何潘仁**の長史と為り（184巻義寧元年にあり），乃ち**朕**の尚書と為るを恥じる邪！且つ方に卿をして**建成**を輔導せ使め，而るに固く去るを求めるは，何ぞ也？」
綱は頓首して曰く、
「**潘仁**は，賊也，妄りに人を殺さんと欲する毎に，臣は之を諫めて即ち止む。其の長史と為るも，以て愧じる無かる可し。**陛下**は創業の明主なり，臣は不才にして，言う所は水を石に投じるが如し（枯渇して水を受けず），**太子**に言うも亦た然り，臣は何ぞ敢えて久しく天台（尚書省をいう）を污し，東朝（東宮）を辱かしめん乎！」
上は曰く、
「公の直士なるを知り，勉めて留まりて吾が兒を輔けるべし。」

戊子（24-3+1=２２日），**綱**を以て**太子**の少保と為し，尚書、詹事は故の如し。**綱**は復た上書して**太子**が飲酒して節無きを，及び讒慝を信じ，骨肉を疏んずを諫める。**太子**は懌さず，而して為す所は故の如し。**綱**は鬱鬱として志を得ず，是の歳，固く老病と稱して辭職し，詔して尚書を解き，仍ほ少保と為す。(11-061p)

■●［**竇建德は張道源らを許す**］淮安王の**神通**は慰撫使の**張道源**をして趙州（周の穆王が造父を趙城に封じるは、即ち此の地なり。北魏は趙郡を置く。隋の大業の初め、趙州を置く。直隷省大名道趙県、現・石家荘市趙県）に鎮せ使む。庚寅（26-3+1=２４日），**竇建德**は趙州を陷し，總管の**張志昂**及び**道源**を執る。**建德**は二人及び邢州刺史の**陳君賓**の早く下らざるを以て，之を殺さんと欲す。國子祭酒の**凌敬**は諫めて曰く、

「人臣は各々其の主の為に用いられる，彼は堅守して下らず，乃ち忠臣也。今**大王**が之を殺せば，何を以て群下を勵ます乎！」

建德は怒りて曰く、

「吾は城下に至り，彼は猶ほ降らず，力屈して擒に就く，何ぞ捨(ゆる)す可けん也！」

敬は曰く、

「今**大王**は大將の**高士興**をして**羅藝**を易水に拒が使め，**藝**才(わずか)に至れば，**士興**は即ち降る，**大王**之意は以て何如と為す？」

建德は乃ち悟り，即ち命じて之を釋さしむ。

●［**梁師都は延州攻略失敗**］乙未（31-3+1=２９日），**梁師都**は復た延州を寇し，**段德操**は擊ちて之を破り，斬首は二千餘級，**師都**は百餘騎を以て遁げ去る。**德操**は功を以て柱國に拜し，爵平原郡公を賜わる。鄜州（上郡に北魏は東秦州を置く、後北華州と為す。西魏は敷州。大業二年に鄜城郡。後上郡。唐は鄜州。陝西省楡林道鄜県、現・延安市富県）刺史の鄜城の壯公の**梁禮**は戰沒す。

■**冬，十月**，己亥（35-32+1=４日），就きて涼州總管の**楊恭仁**に納言を加える。幽州總管の燕公の**羅藝**に姓の**李氏**を賜わり，燕郡王（國公より進みて郡王に封じられる。唐の制で國公は食邑二千戸、郡王は食邑四千戸、従一品）に封じる。

■●辛丑（37-32+1=６日），**李藝**は**竇建德**を衡水（冀州の県、直隷省大名道衡水県の西南十五里、現・衡水市桃城区）に破る。

■［**龐玉は梁州總管、獠を討つ**］癸卯（39-32+1=８日），左武候大將軍の**龐玉**を以て梁州總管と為す。時に集州（武德元年に梁州の灘江・巴州の符陽・長池・白石を析(せき)ちてを置く。漢の宕渠・符陽、現・四川省巴中市）の獠は反し，**玉**は之を討ち，獠は險に據りて自ら守り，軍は進むを得ず，糧は且に盡きんとす。熟獠（辺境に近き獠、遠き者は生獠）は反する者と皆な鄰里親黨にして，爭いて言う、

「賊擊つ可からず」

と，**玉**に還るを請う。**玉**は揚言す、

「秋穀は將に熟し，百姓は收刈するを得る毋れ，一切軍に供せん，賊を平らぐるに非ざれば、吾は返らず。」

聞く者は大いに懼れ，曰く、

「大軍は去らざれば，吾が曹(ともがら)は皆な將に餒死せんとす。」

其の中の壯士は乃ち賊營に入り，所親と潛に謀り，其の渠帥を斬り而して降り，餘黨は皆な散じ，**玉**は追討し，悉く之を平らぐ。

●■［**劉武周は魏王を自稱し、唐は討伐**］**劉武周**は**宋金剛**を將いて進みて澮州（義寧元年に絳郡の翼城・絳県を

以て澮州を置く。北齊の建州が前身）を攻め，之を陷し，軍勢は甚だ鋭なり。**裴寂**は性は怯にして，帥を將いる之略無し，唯だ使いを發するに駱驛（続々）として，虞、泰二州（義寧元年に蒲州の安邑・虞郷・夏を以て安邑郡を置く。武德元年に蒲州の汾陰・龍門を以て汾陰郡を置く、武德元年に泰州という）の居民（收民×）を趣して城堡に入れ，其の積聚を焚かしむ。民は驚擾し愁怨（悉怨×）し，皆な盜を為すを思う。夏縣（漢の安邑県、虞州に属す）の民の**呂崇茂**は衆を聚め**魏王**を自稱し，以て**武周**に應じ，**寂**は之を討ち，敗れる所と為る。永安王の**孝基**、工部尚書の**獨孤懷恩**、陝州總管の**於筠**、内史侍郎の**唐儉**等に詔して兵を將いて之を討たしむ。(11-062p)

■●［太原奪還の重要性］時に**王行本**（去年十二月、堯君素のあと拠る）は猶ほ蒲板に據り，未だ下らず，亦た**武周**と相い應じ，關中は震駭す。**上**は手敕を出して曰く、

「賊勢は此くの如し，與に鋒を爭い難し，宜しく大河以東を棄て，謹しんで關西（蒲津関）を守り而して已むべし。」

秦王の**世民**は上表して曰く、

「太原は，王業の基とする所なり，國之根本なり。河東は殷實にして，京邑の所資する所なり，若し舉げ而して之を棄てれば，臣は竊に憤恨す。願わくは臣に精兵三萬を假せば，必ず冀わくは**武周**を平殄し，汾、晉を克復せん。」

上は是に於いて悉く關中の兵を發して以て**世民**の統べる所を益し，**武周**を擊た使む，乙卯（51-32+1=２０日），華陰に幸し，長春宮に至りて以て之を送る。

●■［竇建德は黎陽を落とす］**竇建德**は兵を引いて衛州（漢の汲県の地、東魏は義州を立てる。北周は衛州と改め、汲に治す、河南省新郷市衛輝市）に趣く。**建德**は行軍する毎に，常に三道と為し，輜重、細弱は中央に居り，步騎は左右を夾み，相い去ること二里許り。**建德**は千騎を以て前行し，黎陽（衛州東北 120 里）の三十里を過ぎ，**李世勣**は騎將の**丘孝剛**を遣わして二百騎を將いて之を偵（うかが）わしむ。**孝剛**は驍勇にして，馬槊を善くし，**建德**と遇い，遂に之を擊ち，**建德**は敗れ走る。右方（漢書の語）兵は之を救い，擊ちて**孝剛**を斬る。**建德**は怒り，還りて黎陽を攻め，之に克ち，淮安王の**神通**、**李世勣**の父の**蓋**、**魏徵**及び**帝**の妹の**同安公主**を虜とす。唯だ**李世勣**は數百騎を以て走りて河を渡り，數日にして，其の父の故を以て，還りて**建德**に詣りて降る。衛州は黎陽の陷るを聞き，亦た降る。**建德**は**李世勣**を以て左驍衛將軍と為し，黎陽を守ら使め，常に其の父の**蓋**を以て自らに隨わせて質と為す。**魏徵**を以て起居舍人と為す。滑州刺史の**王軌**の奴は**軌**を殺し，其の首を攜えて**建德**に詣りて降る。**建德**は曰く、

「奴は主を殺すは大逆なり，吾は何為れぞ之を受けん！」

立ちどころに命じて奴を斬り，其の首を滑州に返す。吏民は感悅し，即日降を請う。是に於いて其の旁州縣及び**徐圓朗**等は皆な風を望みて歸附す。己未（55-32+1=２４日），**建德**は洺州に還り，萬春宮を築き，之に都を徙す。淮安王の**神通**を下博（冀州の県、直隷省保定道深県の南三十里）に置き，待つに客禮を以てす。

■［竇建德に投降続々］行軍總管の**羅士信**は勇士を帥いて夜洛陽の外郭に入り，火を縱ちて清化裡を焚き而して還る。壬戌（58-32+1=２７日），**士信**は青城堡（青城宮の堡）を拔く。**王世充**は自ら兵を將いて地を徇え滑台に至り，黎陽に臨む。尉氏（現・開封市尉氏県）城主の**時德睿**、汴州（古の大梁の地、戦国時代に魏都となる。漢は陳留郡、東魏の梁州、北周は汴州）刺史の**王要漢**、亳州（漢の譙県、魏の譙郡、北周武帝は亳州を置く）刺史の**丁叔則**は遣使して之に降る。**德睿**を以て尉州刺史と為す。**要漢**は，**伯當**之兄也。

■［夏侯端の逃げ還る辛苦］**夏侯端**（今年四月に淮左を安撫せしむ）は黎陽に至り，**李世勣**は兵を發して之を送り，澶淵（隋の開皇十六年に澶淵県を置く、黎州に属す、現・河南省濮陽市濮陽県）より河を濟り，檄を州縣に傳え，東に海に至り，南に淮に至り，二十餘州，皆な遣使して來降す。行きて譙州（亳州臨煥県に隋は譙州を置く、現・安徽

省亳州市譙城区）に至り，會々汴、亳は**王世充**に降り，還路は遂に絶える。**端**は素より衆心を得（11-063p），従う所は二千人，糧盡くと雖も委て去るに忍ばず，澤中に端坐し，馬を殺して以て士に饗し，因りて歔欷して謂って曰く、

「卿等の鄕里は皆な已に賊に従い，特に事を共にする之情を以て，未だ委てられる能わず。我は王命を奉じる，卿に従う可からず。卿は妻子有り，宜しく我に效うべき無し。吾の首を斬りて賊に歸す可し，必ず富貴を獲ん。」

衆は皆な流涕して曰く、

「公は唐室に於いて親屬有るに非ず，直に忠義を以て，志は存を圖らず。某等は賤しと雖も，心は亦た人也，寧んぞ肯えて公を害し以て利を求めん乎！」

端は曰く、

「卿殺されるに忍ばず，吾は當に自ら刎ねるべし。」

衆は之を抱持し，乃ち復た同じく進み，潛行すること五日，餒えて死し及び賊の擊つ所と為り、奔潰して相い失う者は太半なり，唯だ餘の五十三人は同じく走り，豆を采り之を生食す。**端**は節を持し未だ嘗て身を離さず，屢々從者を遣わして散じて，自ら生を求めしめ，衆は又た可かず。時に河南之地は皆**世充**に入り，唯だ杞州刺史の**李公逸**は唐の為に堅守し，兵を遣わして**端**を迎え，之を館給す。**世充**は使いを遣わして**端**を召し，衣を解いて之を遺り，仍ほ除書を送り，**端**を以て淮南郡公、尚書少吏部と為し。**端**は使者に對し書を焚き衣を毀りて，曰く、

「**夏侯端**は**天子**の大使なり，豈に**王世充**の官を受けん乎！汝は吾が往くを欲すれば，唯だ吾が首を取る可き耳。」

因りて節旄を解き之を懐にし，刃を竿に置き，山中より西に走り，復た蹊徑無く，荊棘を冒踐し，晝夜兼行して，宜陽に達するを得，從者は崖に附（続は墜）き水に溺れ，虎狼の食らう所と為り，又た其の半を喪う。其の存する者は鬢髮禿げ落ち，復た人の狀無し。**端**は闕に詣りて**上**を見，但だ功無しを謝し，初めより自ら艱苦を言わず，**上**は復た以て秘書監と為す。

■●**郎楚之**（夏侯端と同時に出発）は山東に至り，亦た**竇建德**の獲る所と為り，**楚之**は屈せず，竟に還るを得る。

●［王世充は李公逸を斬る］**王世充**は其の從弟の**世辯**を遣わして徐、亳之兵を以て雍丘を攻める。**李公逸**は遣使して救いを求め，**上**は賊境を隔てるを以て，救う能わず。**公逸**は乃ち其の屬の**李善行**を留めて雍丘を守ら使め，身は輕騎を帥いて入朝し，襄城に至り，**世充**の伊州刺史の**張殷**の獲る所と為る。**世充**は謂って曰く、

「卿は鄭を越えて唐に臣なり，其の說は安くにか在るや？」

公逸は曰く、

「我は天下に於いて，唯だ唐有るを知るのみ，鄭有るを知らず。」

世充は怒り，之を斬る。**善行**も亦た沒す。**上**は**公逸**の子を以て襄邑公と為す。

■甲子（60-32+1=２９日），**上**は華山（華州の華陰県、岳祠）を祠る。

令和６年４月 20 日　11659 文字

令和６年４月 24 日　25061 文字